



No. 9

避けて通れぬ老いの道

生きがいある

老後を迎えるために



リポーター 成田ケイさん (鉅鈞)

今回は、大館市内の老人施設の中から、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、老人保健施設を一所ずつ訪問してみました。私も水交苑「のぎく」でのデイサービスや、福祉バンク利用会員の在宅サービスなどのお手伝いを通じてお年寄りのかたたちと接している身であり、そんな自分が常々感じていることも重ね合わせながら見学させていただきました。

### 1・成章園

— 趣味を持って若さを保つ —

十二所の軽井沢地内にある養護老人ホーム「成章園」。おおむね六十五歳以上のおもに一人暮らしのかたのうち、身体的・精神的・環境的、または経済的な理由により自宅での生活が困難なかが入所できる施設です。

ここは、木材をふんだんに使った、温もりと優しさに包まれた平屋建ての空間です。中は広く、ゆったりとした食堂や、ゲートボールを屋内で楽しめる広いホールがあるのに驚きました。取材に伺った日も、大きな笑い声を上げてゲートボールに興じているお年寄



「成章園」では西嶋係長にお話を伺いました。

りたちの姿が印象的でした。すばらしいことと思います。

一人ひとりが健康で、趣味を生かしながら潤いのある生活を送り、協調性を養いつつも個々の時間を大切に、というホームの方針が実感できました。

入所者の平均年齢は年々高くなり、特別養護老人ホームへの入所替えが必要なかたも多くなっているのだそうです。職員の介護の手が一層必要になっています。半面、入所希望者が多いのに空きがないという現状も、残念なことです。

### 2・神山荘

— お茶飲み友達大切に —

花岡町の台地に開設された特別養護老人ホームです。この施設には、おおむね六十五歳以上のかたで身体的・精

神的な障害のために常時の介護を必要とし、在宅で介護を受けることが困難なかが入所しています。

ここではちよつとユニークな個人レクリエーション活動を行っていました。これは、とかく画一的になりがちなホームでの生活を、利用者の個人的なニーズに応じてより人間らしいものにした、という趣旨のもと、職員間の綿密な連携によって、一人ひとりの入所者の希望に合わせたレクリエーション活動を個別に実現するものです。

例えば：

▼ふるさとはやっぱりこの目で見た  
いもの（わが家訪問）

▼食いしん坊ばんざい（市内の食堂  
めぐり・外食）

▼お願い、もつときれいになりたい  
の（理・美容院へ）

▼いい湯だな（温泉へ）

▼こんな私もスターになれる（カラ  
オケへ）

などなど、入所者一人ひとりの希望が活かされていて、とてもおもしろいと思えました。

取材に伺った日は、入所者の中の希望者六人と職員のかたが鍋を囲んで、一緒に昼食を食べているところでした。その雰囲気はとても和やかで家庭的でした。私はふと、家庭でひっそり暮らしている一人暮らしのお年寄りに思いをはせていました。

施設長さんは「特別養護老人ホームの暗いイメージを払拭し、生き生きとした明るい施設にするための努力と工夫は惜しみません。自分が入所しても